特定非営利活動法人草加市カヌー協会

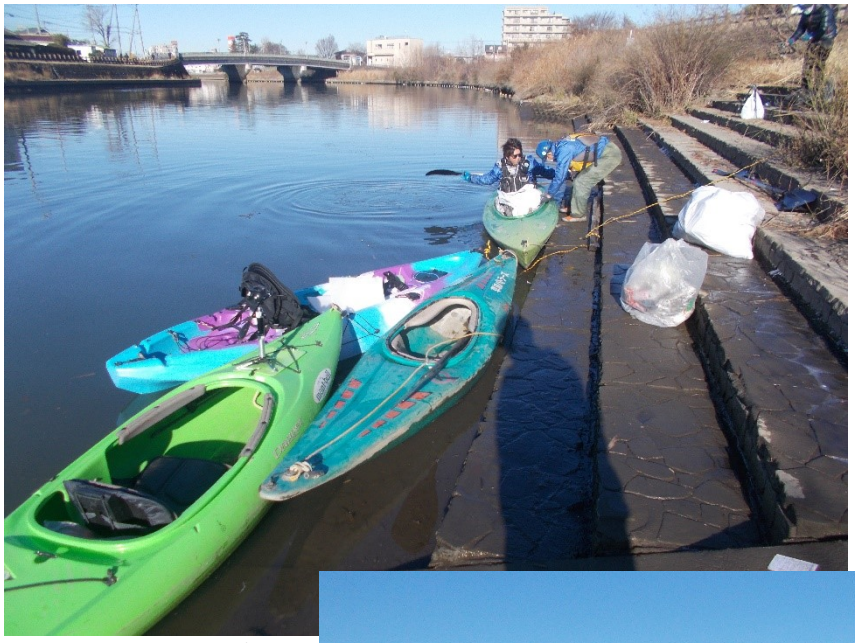
草加パドラーズ

[会報第 311 号] 令和 3 年 1 月 10 日発行

□草加パドラーズ事務局 住所 草加市松江 2-4-16 □電話 048-931-3844

緊急事態宣言発出中

定例休止！自主活動 4 名 5 袋



1 月 9 日(土)、新型コロナーウイルス感染による一都三県緊急事態宣言発出中は定例活動を中止としました。本日より、上級者以上の大人で自主活動を行っていきます。

草加パドラーズ本日の状況

ホームページで草加パドラーズの定例活動中止を伝えたところですが、自己責任で活動するということで、古田、井坂、富沢、中島の 4 名が活動しました。蒲生船着場間 2.0 ㎞の**浮遊ゴミ拾いで 5 袋分と角材 1 本**の成果でした。三密に気を付け、感染予防を徹底しての活動を無事終了しました。大変お疲れ様でした。

日曜/自主活動７名５袋

１月10日(日)、古田、佐藤ご夫妻、大原、磯部、富沢、中島の７名が宮代橋間2.5㎞で**浮遊ゴミ５袋分、木材２、掛蒲団１**の成果でした。朝は零下の気温、弱い北風が吹く晴天で、行きは太陽を正面から受け、引き潮に乗り、帰りは潮止まりから上げ潮に反転する時間帯でしたので快適な活動でした。宮代橋側へ上陸して八潮

ＯＢ館で休憩し戻りました。磯部氏はカナディアンカヌーで、富沢氏は二人乗り艇でしたので布団や大きなゴミを乗せて帰りました。緊急事態宣言中の自主活動で、感染防止を徹底する事など、めいめいが自覚を持って参加してくれました。大変お疲れ様でした。

151歳ペアでカヌーレース出場

文具店経営　佐藤　宣勝（埼玉県　79）

イッチニ、イッチニ。水面に妻の気合が入ったかけ声が飛ぶ。カヌーの2人艇で大事なのは、ペアのパドルが一糸乱れず、水をとらえること。旧日光街道沿いを流れる綾瀬川で妻と練習している。

私が昨春に胃がんの手術を受け、秋に転移・再発もないとの再診結果を受けた。体力維持に40年来やってきたカヌーを再開。すると50代まで関東近県の急流、激流をこぎ回っていた妻が昨年10月、「1月10日に開催される江戸川のカヌーレース、千葉県知事杯に出よう」と言い出した。それも2人艇で。このレースは年明け早々の開催で、あらゆる種類のカヌーが広い川面を埋め尽くす。しかし妻は約20年のブランクがあり、2人艇は共にまったくの未経験。さっそく一緒に練習を始めた。

近くに住む我々の子供たちはコロナ禍で今正月は来宅しないようなので、大みそかも、私の誕生日である元日を含めた三が日も特訓だ。妻と2人合わせて151歳のペア。新年は江戸川で妻の「イッチニ」で幕を開け、レースでは、できるだけ上位での「完漕（かんそう）」を目指したい。

佐藤宣勝名誉会長

１月１日(元旦)、名誉会長佐藤宣勝氏が朝日新聞〈投稿欄〉のトップ記事で掲載されました。

文房具店を経営しながら、奥様と二人で家族カヌーを楽しみながら子育てをし、立派に子育てを終え、夫婦合わせて151歳の現在、二人艇で千葉県知事杯に挑戦する予定でしたが、残念ながらコロナ渦で今春は叶いませんでした。佐藤さん、また来年を目指して頑張りましょう。

佐藤宣勝氏が綾瀬川でカヌーを始めたのが７年前です。当時は、悪臭と浮遊ゴミがたくさん流れていました。子供の頃から綾瀬川の流れを見て生活してきた中島清治氏と意気投合し草加パドラーズを立ち上げ、浮遊ゴミ回収活動を始めました。皆さんの良いお手本として、今後ともご指導よろしくお願い致します。